

佐々木毅著「政治学の名著 30」ちくま新書 筑摩書房 2007年4月10日刊を読む

孔子『論語』一仁の政治一

徳治

1. (1) 統治者たらんとする者は何をなすべきか。
 - (2) 「政を為すに徳を以てすれば、譬えば北辰のその所に居て、衆星のこれを^{めぐ}共るが如し」
 - (3) 為政者の徳による支配を強調する。
 - (4) 刑罰中心の統治においては人間はそれに反することさえしなければ恥じることを知らないが、徳と礼を以てすれば恥を知り、その行いは正しくなる。
 - (5) 支配者が善を欲するならば民も善となるのであって、
 - (6) 「君子の徳は風なり。小人の徳は草なり。草はこれに風を^{くわ}上うるとき必ず偃す」
 - (7) 為政者が自ら身を修めることを起点にして民を教化することが統治の眼目となる。
 - (8) 「善人、民を教えること七年ならば、亦以て^{いくさ}戎^つに即かしむべし」
2. (1) 具体的な統治方法について
 - (2) 「食を足らしめ、兵を足らしめ、民をして信あらしめよ」
 - (3) その優先順位について言えば...
最初に省けるのは軍備であり、

次が食料であり(死は免れないから)、

有名な「民無信不立」が最後に残させる。
 - (4) 政治に携わるためには五つの美德を尊び、四つの悪徳を除去する必要があるという。
 - (ア) 「恵して費やさず、
 - (イ) 勞して怨みず、

(ウ)欲して貧らず、

(エ)泰^{ゆた}かにして驕らず、

(オ)威^{たけ}あって猛^{たけ}からず」が五つの美德であり、

(ア)「教えずして殺す、これを虐と謂う、

(イ)戒めずして成るを視る、これを暴と謂う、

(ウ)令^{ゆる}を慢^{ゆる}くして期を致す、これを賊と謂う。」

(エ)これを猶^{ひと}しく人に与^{すいとう}うるに出^{やぶさ}内の吝^{ゆうし}かなる、これを有^{ゆうし}司と謂う」が四つの悪徳である。

(5) 自分自身の身を修めて百姓を安心させること

「堯舜もそれ猶^{これ}諸を病めり」というように、これは難しいことである。

3.(1)理想の為政者は堯や舜、禹といった伝説の人物である。

(2)何よりも彼らは自らの身を持する以外には無為であり、自ら統治に携わらなかったにもかかわらず、理想の統治を実現したのであった

(3) 「大なるかな、堯の君たるや。疑^ぎ疑^ぎとして、唯天を大なりと為^なす」

「疑^ぎ疑^ぎたるかな、舜・禹の天下^{たも}を有^{たも}てるや、而して与^{あずか}らず」

「無為にして治むる者はそれ舜か。夫何^{それ}をか為さんや、己れを恭しくして正しく南面せるのみ」

「禹は吾間然すべきなし」。

(4)その意味では自ずから治まる状態がそこで出現したのである。

P78 ~ 79

[コメント]

論語による孔子の教えの結論は「徳治」つまり「徳による政治」かも知れない。佐々木先生の本書はよくその内容がまとめられている。あとは実行あるのみと考える。

- 2009年7月19日林明夫記 -